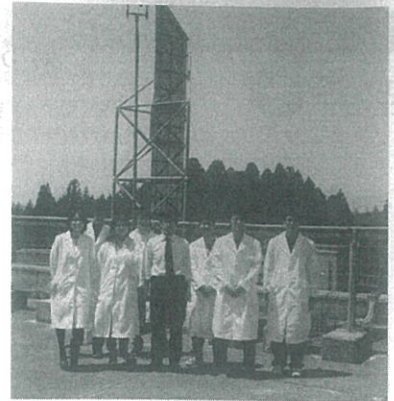


研究室紹介

新潟工科大学 工学部 環境科学科

地球環境化学研究室 福崎紀夫研究室



新潟工科大学は、新潟県柏崎市藤橋地区に立地する工学系単科大学です。環境科学科の他に、機械、情報電子、建築学科があります。本学は新潟県と柏崎市等の県内市町村から財政支援を受け、また企業からの寄付などにより1995年に開学しました。「ものづくり」の視点を重視し、当学科では「人と環境にやさしいものづくり技術者の育成」を目指しています。

福崎研究室は、2008年4月新潟県環境技術職員を辞し本学に赴任して発足しました。最近の主要研究テーマの一つは「水銀の環境動態」です。県職員時代の大気中水銀の環境研究を引き継いでいます。近年、水銀が地球規模での有害汚染物質であるとの認識が定着し、環境中への水銀排出量削減に向けた国際条約の採択が予定されています。水銀は新潟県が経験した水俣病に代表される地域環境問題とともに、最近では地球環境問題としての新たな展開が求められています。このような背景のもとに大気中水銀の形態別自動測定、粒子状水銀の粒径分布測定、湿性沈着量測定などを行っています。

他の主要テーマは、「佐潟水質汚濁の季節変動要因」です。佐潟は新潟市西部の砂丘列間に位置し自宅にも近く、ラムサール条約登録湿地です。流入する河川は無く降水と湧水でのみ涵養されており、肥料由来の高濃度窒素成分の流入や潟内底泥からの重金属成分の溶出などによる水質汚濁が懸念されています。

工学部の中での自然環境科学研究はやや異質ですが、新潟県の環境研究をもう少し続けたいと思っています。

「身近な柏崎の環境研究をしたい。」それがこの研究室を選んだ理由です。先生の担当する実験科目でも、大気中オゾン測定や浸出水中の鉄(II)の測定など地域の環境を扱った内容に惹かれたことも理由の一つです。研究室の仲間はそれぞれ別の研究課題が与えられ、個々に責任を持って積極的に課題に打ち込むことが求められています。就職活動も一段落し分析機器の扱いをまかされ、日々充実した学生生活を送っています。(環境科学科4年 水科 拓也)

工学部ですが地球環境問題を卒業研究テーマとしています。現在、7名の4年生が配属され、学生同士や先生との関係はとても良好で、私はこの研究室の雰囲気が好きです。本年6月に開催された大学祭の模擬店では「福ちゃんのアイス天ぷら」でグランプリを獲得しました(右写真)。抜群の得票でした。一人ひとりが楽しく有意義な卒業研究に取り組める、それが福崎研究室の魅力だと思っています。

(環境科学科4年 土屋 稜)

略歴

新潟県生まれ

- 1971年 新潟大学大学院修士課程修了
- 同年 新潟県職員(公害研究所大気課)
- 1989年 新潟県保健環境科学研究所(大気科学科 専門研究員)
- 1998年 酸性雨研究センター(ADORC)(現 ACAP、大気圏研究部長)
- 2003年 新潟県保健環境科学研究所(参事)
- 2008年 新潟工科大学工学部環境科学科(教授)現在に至る
大気環境学会 監事

